

令和 4・5 年度 菊川市 小中一貫教育・「学びの庭」構想

岳洋学舎 学びの庭

目指す子ども像 自信をもち自分の力を発揮する子



小・中学校は、9年間を見通した共通の目標を設定し、系統的・継続的な指導を同一步調で実践します。学校と地域、家庭が、目標を共有して、子どもたちのよりよい成長を目指して連携・協力します。

学校、地域、家庭で見守られた子どもたちは、自己肯定感を高め、自信をもって学習に取り組む（学力の向上）とともに、地域の人々や友達とふれあう中で、自己を高めることができます（人間関係力の向上）。

この子どもたちに、次代の地域・社会の担い手となることを望みます。

小中一貫教育・「学びの庭」構想が必要なわけ

1 成長の段差への対応

◆これまでの義務教育の枠組みが最善とはいえなくなってきた

◆体と心の成長の変化

- ・身体的成長…2年早い
- ・心の成長…個人差が拡大

2 求められる力の変化への対応

◆教育内容の質・量の高まり

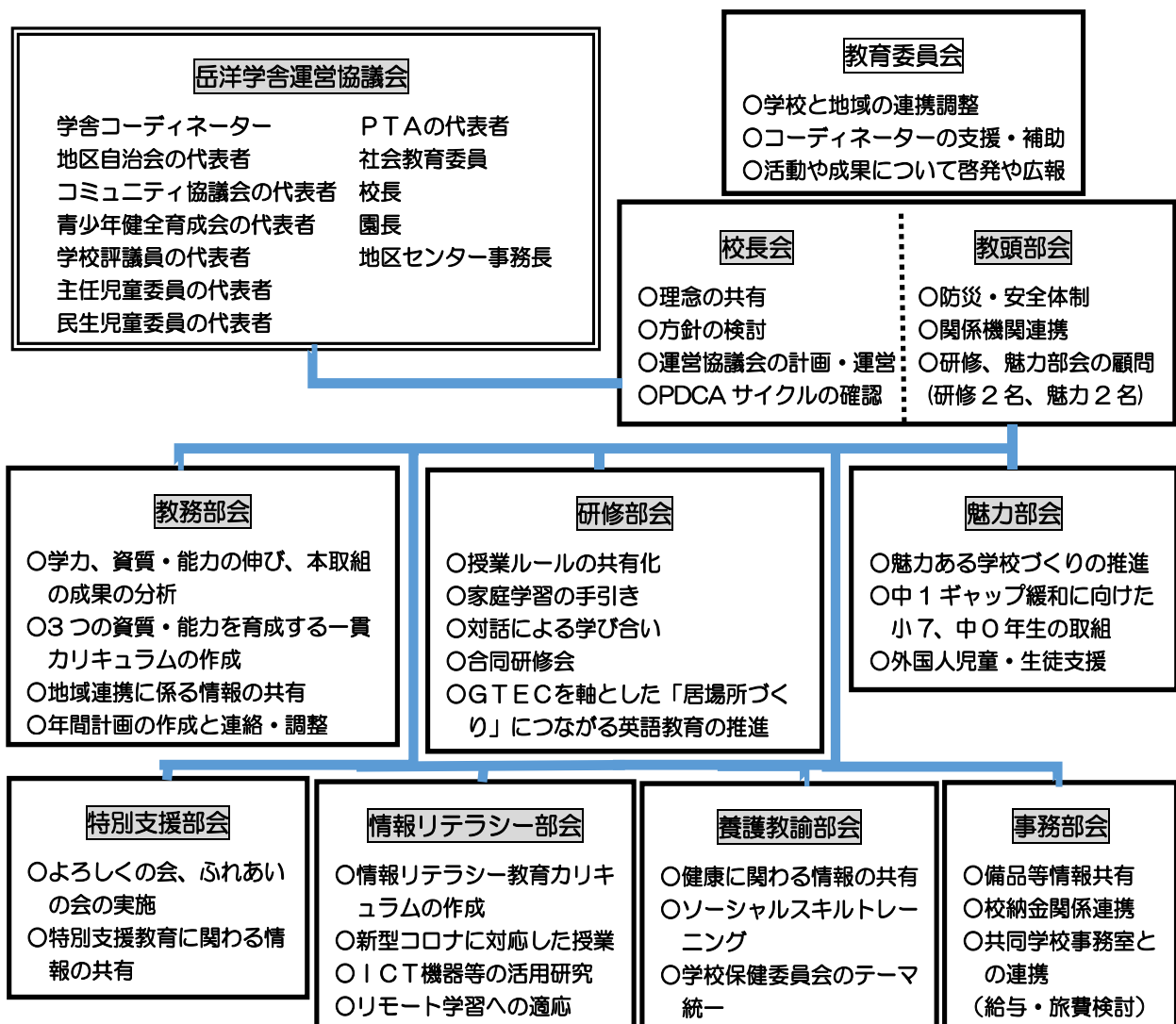
◆実社会で活用できる力が求められている

- ・コミュニケーション力
- ・課題解決力
- ・情報活用能力 など

3 地域社会の変化への対応

- ・人口減少・高齢化
- ・家庭での子どもと向き合う時間の減少や格差の広がり
- ・子どもと地域との結びつきが希薄になりつつある
- ・学校、家庭だけでは難しい

岳洋学舎推進組織



岳洋学会「学びの庭」構想小中一貫教育グランドデザイン
 学舎教育目標（目指す子供像）

「自信をもち自分の力を発揮する子」



取組の柱（育てたい力）

「実社会で活用できるコミュニケーション力」の育成

主体性

人間関係形成能力

多面的・多角的思考力



	主体性	人間関係形成能力	多面的・多角的思考力
中	中学校第3学年末までに目指す子供像		
3 2 1	自分、学級、学校、地域社会をよりよくするために、自分事として物事に取り組もうとする	自分と他人の違いに気付き、認めようとする	比較・検討・統合することで、よりよい自分の考えをもつ 岳洋中学校 
小	小学校第6学年末までに目指す子供像		
6 5 4 3	自分、学級、学校をよりよくするために、自分事として学習や活動に取り組もうとする	相手の思いや考えを受け止め、自分の考えを伝え、理解し合おうとする 小笠北、小笠東、小笠南小学校	くらべる・つなげる・まとめることで、自分の考えをもつ 
小	小学校第2学年末までに目指す子供像		
2 1	自分、学級、学校をよりよくするために、進んで学習や活動に取り組もうとする	自分の思いや考えを伝えるだけでなく、相手の思いや考えを受け止めようとする	くらべることで、自分の考えをもつ 

地域との連携・協働

- ・地域の人から学ぶ
- ・地域の材を生かした取組
- ・学習補助
- ・読み聞かせ
- ・環境整備
- ・すてきなあいさつ運動



魅力ある学校づくり

- ・教職員による居場所づくり
- ・児童生徒による絆づくり
- ・子供の声調査をもとに取組を改善・実施（PDCAサイクルの確立）

一貫（岳洋型）カリキュラム

- ・3つの力を育成する9年間を見通したカリキュラム
- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・ICTを活用するための学習活動
- ・防災学習 等

小小・小中連携

- ・3小合同自然教室
- ・小中合同外国語
- ・GTECを軸とした英語学習の推進（小中の接続）
- ・中学校授業体験
- ・部活動見学会 等

授業づくり

- ・各教科等で3つの力を育成する授業を実践
- ・対話による学び合いの充実
- ・板書の統一
- ・テストファイルの作成

10の成果指標



進める組織

岳洋学会運営協議会、学舎コーディネーター（教育委員会）、校長会
 8部会（教頭、教務、研修、魅力、特別支援、情報リテラシー、養護教諭、事務）

小中一貫教育・「学びの庭」構想の実践

小・中学校間のたての接続 中学校区を単位とした小学校、中学校が保幼こども園を含め連携を強化し、一貫性のある教育を行う

◇園との連携

園の先生が1年生に読み聞かせ



1年生と園児の合同プール



お店屋さんに園児を招待



◇小中の連携

特別支援学級の交流



6年生と中1年生の英語交流



6年生の中学校見学



中学校生活の話と部活見学



小学校での職場体験



あいさつプロジェクト



合同引き渡し訓練



◇小小の連携 合同自然教室



◇教職員の連携 合同研修会



小・中学校間のたての接続

学校と地域社会のよこの連携 学校、家庭及び地域住民が連携協力を推進することで、子どものよりよい成長を目指す

◇地域の人に支えられ、地域の力を教育に取り込む

野菜の苗植え



畑の先生の野菜に感動



田植え体験



お茶の手もみ体験



稲刈り体験



地域訪問・商店



みんなで宿題をやる会



竹灯ろう作り



職場体験



ふるさと未来塾



起業プラン検討学習会



読み聞かせ



放課後子ども教室



「ペコリあいさつ」活動たすき贈呈



岳洋学舎運営協議会



学校と地域社会のよこの連携

岳洋学舎の成果と課題

○成果

- ・岳洋学舎教職員が一堂に会し、学舎の子どもたちの課題解決に向けた改善策と手立てを考え、共同歩調で取り組むことができた。
- ・コロナ禍だからできた取組（小中オンライン会議や ICT を活用した学習等）を学舎で協力して進めることができた。他校との交流を通じ、学舎での一体感をもたせることができた。
- ・あいさつ運動では、あいさつプロジェクト 2023 運動や各校の創意ある取組に連動させ、小中連携して盛り上げることができた。また保護者や地域の方の協力を得ることができた。
- ・重点としたコミュニケーション力の育成を目指した 3 つの力に向けて、教員の授業改善（意識改革）が進んだ。（3 つの力とは「主体性」「人間関係形成能力」「多面的多角的思考力」）
- ・ふるさと未来塾に参加する地元企業を増やすことができた。地元企業の協力のもと学校との共同企画や出前講座による学びの充実を図ることができた。
- ・学舎運営協議会では、委員の方から子どもの様子や地域の声を聞き、学舎の取組に反映することができた。

◆課題

- ・「学びの庭」の取組を広く地域住民に知っていただき、多くの方の協力を得るためにホームページやたより等を活用した情報発信に努める。
- ・小中接続や地域との連携のよりよい方法を探り、学舎で子どもを育てるという意識をさらに強める。
- ・学習支援ボランティアへの理解を促し、学校のニーズに応じた協力者を増やしていく。

◇今後の取組

- ・不安を和らげ期待をもって中学校に進学できるように、中学校が新 1 年生向けの動画を作成し小学校に送ったり直接出向き、話をしたりする。
- ・オンライン会議での学習交流に積極的に取り組み、小学校と中学校との連携活動を増やす。
- ・小学校区内だけでなく、学舎内の他の区域のことを知る活動計画を計画する。
- ・いろいろな職種の専門家の方から学ぶ機会をもち、将来の夢をもたせる取組をする。
- ・地域の方から「学校に〇〇の協力をしたい」と言ってもらえる制度を構築する。放課後に公民館等で勉強を見てもらえる組織づくりをする。
- ・地域を知る地域探訪や学習の充実のためのゲストティーチャーを積極的に取り入れる。
- ・コミュニティ・スクールを共通理解して、地域と学校がより連携を強める。
- ・子どもの学習を広げたり深めたりするため、地域の企業との連携を更に進める。